

教育指導者講習会 (IFEL) の基礎的調査研究 (二)

— 福岡学芸大学開催の IFEL —

A Study on IFEL (二)

平田 宗史 平田 トシ子

Munefumi HIRATA Toshiko HIRATA

(福岡教育大学) (九州女子短期大学)

(1995年8月3日受理)

(一) はじめに

第7, 8期のIFELは, 「各開設大学がそれぞれ独立の運営組織をもって, 大学における一種のコースとして大学が自主的に運営することになった。」¹⁾とされている。福岡学芸大学では, 第8期にIFELを開設した。第8期にIFELを開設した大学は, 福岡学芸大学の他, 東京大学, 東京教育大学, 東京学芸大学, 京都大学, 広島大学である。九州地方では, 唯一のIFEL開設大学である。講習内容は, 東京教育大学の理科教育, 社会科教育を除いて, 教育行政・管理であった。福岡学芸大学では, 「小学校指導主事」「小学校管理」の講習が行なわれた。

本稿は, 福岡学芸大学で開催されたIFELの内容を検討するものである。

(二) 福岡学芸大学とIFEL

福岡学芸大学は, 福岡第一師範学校, 福岡第二師範学校, 福岡青年師範学校を包括して, 1949(昭和24)年5月31日, 発足する。発足当時は, 4分校1分教場からなる。正しく, タコの足大学である。翌6月1日, 事務局が福岡分校内に設け

られ, 事務が動き出す。7月に, 各分校の入学式が行なわれ, 9月1日に授業が開始される。1951(昭和26)年3月31日に, 三つの師範学校が廃止され, 翌4月1日, 上級課程が開設されて, 福岡学芸大学は, 大学への道を歩いていく。1952年4月16日, 福岡分校内にあった本学本部および本校を福岡市塩原町226番地に移転する。これで, 福岡学芸大学は, 本校と4分校(福岡分校, 久留米分校, 小倉分校, 田川分校)とからなり, 1966(昭和41)年11月1日, 赤間に統合するまで, その状態が続く。1952年10月現在の教職員は, 表(二-①)の通りである。

教官の定員と現員をみると, 教授の現員は定員の半分以下である。講師は, 逆に, 定員の約2倍が現員である。施設も, 設備も, 戦後の物不足の中で, 十分ではない。

以上のように, 教官および施設の不十分な福岡学芸大学で, 1952年1月7日から3月28日までの間, IFELが開催されるようになった。講習は「小学校指導主事」講座と「小学校管理」講座との二つで, 後者は, 前期と後期の二つに分けて, 実施された。

福岡学芸大学開催のIFELの関係者は, つぎの通りである²⁾。

表(二-①) 福岡学芸大学の教職員の定員と現員 (昭和27年10月)

	学長	教授	助教授	講師	助手	教諭	養護教諭	事務 教務 技術	職員	計
定員	1	56	87	24	20	71	3	207		469
現員	1	26	87	40	23	71	3	202		453

注 『福岡学芸大学要覧』(昭和27年12月) 57頁による。

学 長		塚本 玄門	はもと げんもん
講習管理者	福岡分校主事	石橋 忠次	いしばし ちゅうじ
講座主事 (小学校管理)	教授	藤吉 利男	ふじよし きちお
全 補 佐	教授	鼻地 三郎	はなぢ さんろう
講座主事 (指導主事)	教授	山口 達郎	やまぐち たつろう
全 補 佐	助 教授	大賀 一夫	おほが いちお
助 手	附小教官	中村 正一	なかつむら しょういち
全	全	松崎 欽次	まつざき きんじ
全	全	松竹 勝	まつたけ まさる
米人講師補佐 (通 訳)	附中教官	田町 豊子	たまち とよこ
全	全	浅井 英子	あさい ひでこ
運 営 委 員	事務局 長	清水 邦夫	しみず くにお
全	学生課 長	林 健一	はやし けんいち
全	教務課 長	角大鳥居 克己	すみ おおとりい かつみ
全	会計課 長	浅野 庄三郎	あさの しょうざぶ
全	庶務課 長	福田 秀美	ふくだ ひでみ
全	施設課 長	林 隆三	はやし りゅうざう
経 理 委 員	出納係 長	南里 金重	なんり かねしげ
全	司計係 長	河野 資	かわの とく
全	用度係 長	小村 俊夫	こむら としお
庶 務 委 員	庶務係 長	田中 秀三	たなか ひでさう
全	人事係 長	入江 浩	いりえ ひろし
宿 舎 委 員	分校会計係	袈裟丸 達城	けさまる たつ
講習事務室長	教務部長	高崎 昇	たかさき のぼる
全事務室主任	教務係 長	佐々川 秀彦	ささがわ ひでひこ
事 務 室 員		林 浩二郎	はやし こうじろう

欧文・タイピスト

講習管理者は、福岡分校主事石橋忠次である。小学校管理の講座主事は、藤吉利男教授で、その補佐が鼻地三郎教授である。小学校指導主事の講座主事は、山口達郎教授、その補佐は、大賀一夫、塚本正三郎助教授である³⁾。これらの人々を中心に、IFELは、運営された。

(三) 「小学校指導主事」講座

福岡学芸大学での「小学校指導主事」講座は

1952(昭和27)年1月7日から3月28日までの12週間にわたって行なわれた。その講座主事山口達郎教授、補佐大賀一夫、塚本正三郎助教授を中心にして、それは、運営された。講師は、福岡学芸大学の教官ばかりでなく、「米国人顧問講師として、コネティカット州の上級指導主事として実務に活躍中の、フォーバーグ女史(Miss Ann. U. Foberg)を迎え得たし、招聘講師には、九大の教授をはじめ各地からそれぞれの専門諸大家の応援を得たので、本学の足りないところを補った運営が出来た」⁴⁾とあるように、アメリカ人講師をはじめ、他大学の日本人専門家からなった。

「小学校指導主事」講座への参加者は、40名である。県別にみると、福岡県をはじめ、九州各県と高知県、愛媛県の四国からの参加者がいる。年齢別にみると、33才から45才までと、かなりの幅があるが、36才から43才までが、多い。職名をみると、教育課主事、補導主事、指導委員、出張所主事、視学委員等々の名称で呼ばれている指導主事が多いのは言うまでもないが、公立小学校の校長および教頭もかなりおり、また、附属小学校の教諭も、かなり参加している。

表(二-②)「小学校指導主事」講座県別・年齢別参加人数

(イ) 県別参加人数	(ロ) 年齢別人数																																																		
<table border="1"> <thead> <tr> <th>県名</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>福岡県</td><td>12人</td></tr> <tr><td>大分県</td><td>5</td></tr> <tr><td>佐賀県</td><td>2</td></tr> <tr><td>熊本県</td><td>5</td></tr> <tr><td>長崎県</td><td>4</td></tr> <tr><td>宮崎県</td><td>2</td></tr> <tr><td>鹿児島県</td><td>4</td></tr> <tr><td>高知県</td><td>2</td></tr> <tr><td>愛媛県</td><td>4</td></tr> <tr><td>合計</td><td>40</td></tr> </tbody> </table>	県名	人数	福岡県	12人	大分県	5	佐賀県	2	熊本県	5	長崎県	4	宮崎県	2	鹿児島県	4	高知県	2	愛媛県	4	合計	40	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>33才</td><td>1人</td></tr> <tr><td>34</td><td>2</td></tr> <tr><td>35</td><td>2</td></tr> <tr><td>36</td><td>4</td></tr> <tr><td>37</td><td>5</td></tr> <tr><td>38</td><td>2</td></tr> <tr><td>39</td><td>2</td></tr> <tr><td>40</td><td>4</td></tr> <tr><td>41</td><td>3</td></tr> <tr><td>42</td><td>4</td></tr> <tr><td>43</td><td>6</td></tr> <tr><td>44</td><td>3</td></tr> <tr><td>45</td><td>2</td></tr> </tbody> </table>	年齢	人数	33才	1人	34	2	35	2	36	4	37	5	38	2	39	2	40	4	41	3	42	4	43	6	44	3	45	2
県名	人数																																																		
福岡県	12人																																																		
大分県	5																																																		
佐賀県	2																																																		
熊本県	5																																																		
長崎県	4																																																		
宮崎県	2																																																		
鹿児島県	4																																																		
高知県	2																																																		
愛媛県	4																																																		
合計	40																																																		
年齢	人数																																																		
33才	1人																																																		
34	2																																																		
35	2																																																		
36	4																																																		
37	5																																																		
38	2																																																		
39	2																																																		
40	4																																																		
41	3																																																		
42	4																																																		
43	6																																																		
44	3																																																		
45	2																																																		

注 教育指導者講習連絡室『昭和26年度教育指導者講習修了者名簿』pp. 87~89による。

「小学校指導主事」講座の実施概要は、表(二-③)の通りである。この実施概要から窺える講座の特徴の一つは、午前中は、講義、午後、グループスタディを原則としていることである。二つは、講義が福岡学芸大学の教官ばかりでなく、九州大学、広島大学、東京教育大学の教官および文部省の事務官、さらに、アメリカ人講師によって

表 (二-③) 「小学校指導主事」講座の実施概要

週	月日	曜	午 前	午 后
第一週	1. 7	月	事務連絡, 開講式, 会食	諸準備, 各県代表打合せ
	8	火	講義 Miss Foberg (ワークショップについてのセッション)	テーパーター
	9	水	講義, 中村課長(福岡教育庁) 現代における指導主事の任務	講義, 山口教授 IFEL のオリエンテーション
	10	木	研究班の設定, 研究課題の決定についての討論	企画委員会開催
	11	金	研究班四グループを編成した	グループのメンバー, 各種委員の決定
第二週	14	月	Dr. Howe の講義(教育指導者としての校長)	グループスタディ, 企画委員会
	15	火	(成人の日)	
	16	水	グループスタディ	自由研究
	17	木	講義九大原俊之教授(学校管理)	レクリエーション(独立展参観)
	18	金	講義文部省玖村課長(教員養成について)	Dr. Carley (現職教育について)
第三週	21	月	講義 東京教大 石井教授 (国語教育法)	グループスタディ
	22	火		グループスタディ
	23	水		レクリエーション
	24	木	講義九大原俊之教授(学校管理)	グループスタディ
	25	金	講義 Miss Foberg (指導主事の任務)	自由研究, (インタビュー始まる)
第四週	28	月	講義, 学大山口教授(学習心理)	グループスタディ, 各種委員会
	29	火	デモンストレーション附小(国語, 理科)	デモンストレーションについての研究会, 企画委員会
	30	水	講義 手島教授(教育課程)	レクリエーション(バレーボール ソフトボール)
	31	木		グループスタディ
	2. 1	金	講義 Miss Foberg (小学校の教育)	自由研究
第五週	4	月	講義 Miss Foberg (よい学校の特徴)	グループスタディ(中間報告)各種委
	5	火	デモンストレーション(学校図書館) 新宮小学校	
	6	水	グループスタディ	自由研究, 企画委
	7	木	講義 藤吉教授(教育原理)	グループスタディ(中間発表)
	8	金		飛行場見学
第六週	11	月	講義 文部省駒田事務官(社会教育)	グループスタディ, 各種委
	12	火		グループスタディ, 企画委
	13	水	デモンストレーション 春吉小学校(視聴覚教育)	
	14	木	講義 昇地教授(教育評価)	午前に引続
	15	金	グループスタディ	自由研究
第七週	18	月	グループスタディ(全体会議)	見学, 九大医学部
	19	火	講義 文部省天城事務官(教育委員会法の理論と実際)	
	20	水	講義, 広島大, 三好教授	グループスタディ
	21	木	(個性心理学)	グループスタディ
	22	金	デモンストレーション(能力別指導)東郷小学校	

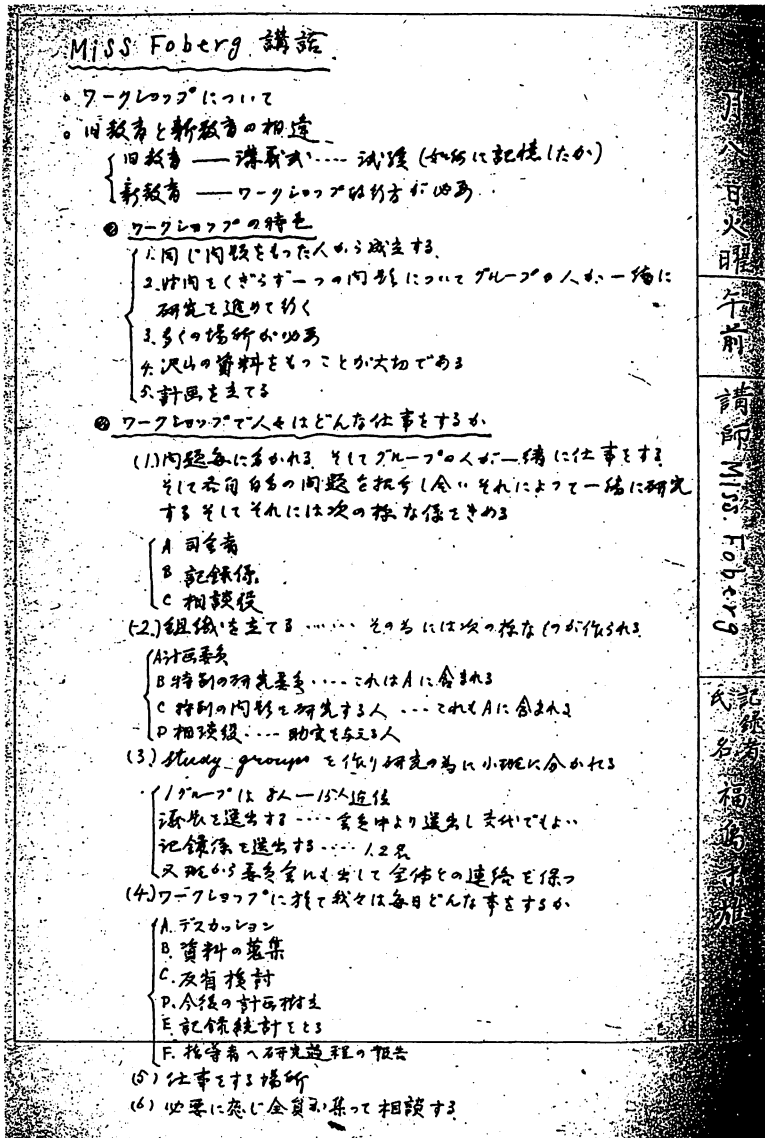
週	月日	曜	午 前	午 后
第八週	25	月	講義 九大, 関助教授(教育心理)	グループスタディ, 各種委
	26	火	講義 Miss. Foberg (カリキュラム)	グループスタディ, 企画委
	27	水	デモンストレーション(生産教育) 山口小学校	
	28	木	講義 九大, 平塚教授	グループスタディ
	29	金	(民主主義教育の根本問題)	自由研究
第九週	3. 3	月	講義 九大, 関助教授(教育心理学)	講義 Miss Foberg プランニングと時間割, 各種委
	4	火	デモンストレーション(特別教育活動) 内野小学校	
	5	水	グループスタディ	(スライド学校建築) 講義 Miss Foberg (一日の学校生活), 企画委
	6	木	講義 高崎教授(算数教育について)	自由研究
	7	金	講義 文部省玖村課長(講和後の教育), Dr. Carley 教授, レクリエーション	
第十週	10	月	グループスタディ(レポート形式打合せ)	デモンストレーション Dr. Howe (フィンガーペイント) 附小, 各種委
	11	火	講義 Miss Foberg (ヨニットワークについて)	自由研究
	12	水	講義 九大 中教授	グループスタディ, 企画委
	13	木	(特殊教育について脳づいについて)	グループスタディ
	14	金	見学 八幡製鉄所, 其の他	
第十一週	17	月	グループスタディ(レポート提出)	講義小倉=中校長(図書館教育)企画委 各種委
	18	火	見学 アメリカンスクール	自由研究
	19	水	講義 大津教授(教育社会学)	指導自主単位取得説明, レクリエーション 研究発表(教科課程班, 学習指導班)
	20	木		
	21	金	春分の日	
第十二週	24	月	講義 九大 平塚教授(宗教教育)	スライド映画(Miss Foberg), 企画委
	25	火	研究討議会(独立後の日本教育について)	レクリエーション
	26	水	研究報告会(教育評価班, 学校評価班)	講義 塚本学長(科学教育)
	27	木	I.F.E.L. 反省会(全員参加)	
	28	金	閉講式	

注 『第八回教育指導者講習研究集録 小学指導主事』 pp. 6~7 による

行なわれていることである。三つは、学外で、デモンストレーションおよび見学を行っていることである。四つは、レクリエーションを行なっていることである。

特徴の一つであり、IFEL のメインであるグループスタディの決定の経緯を『記録簿』(小学校指導主事(-)) を中心に考察してみよう。1952 (昭和27) 年1月7日、午前10時、先ず、事務連絡(講習事務室長, 会計係)が行われ、ついで、閉講式が実施される。そして、会食、午後、各県

代表事務打合せが行なわれた。翌1月8日、午前中に、IFEL の教育顧問であるアン・ヴィ・フォバーク氏の講義がなされた。それは、ワークショップについてなされ、その内容は、つぎの通りである。



この記録によると、まず、戦前の旧教育は講義式で、記憶を重視した試験を重んじたけれども、これからの新教育は、ワークショップ的な行方が必要であるという。そして、ワークショップの特色および内容について講義されている。その日の午後は、ティ・パーティーが行われ、午後4時には終了したという。

1月9日の午前には、福岡県教育庁の中村指導課長が、「現代における指導主事の任務」、午後には、山口達郎教授の「IFELのオリエンテーション」の講義が行なわれる。

10日には、「ワークショップの Study group の

問題設定について討議」した。その討論の議長と記録係は、受講者の中から選ばれた。議長を中心に討議は進められて行った。そして、「問題提出の方法について色々な意見が出た結果、最初に事前各人より提出の問題を山口講師が分類したものを出示してもらい、それに他の問題を追加して行き、それを検討集約することに意見が一致し、次の様な問題が出た。」という。問題は、29出され、それを午前中、8つに集約、さらに、「集約すべく色々討議し、又、各講師の指導、セッションの結果、一応仮定的に自分の希望しようとする問題一つに挙手して数を調べた処、次の結果を得た。」

のである。

②望ましい教育環境のあり方	0	0
④教育評価	6	6
⑤学習指導法	23	18
⑥教育課程	4	5
⑬学校の管理及び指導	4	6
⑭社会教育	0	0
⑮教育心理学	0	0
⑲ガイダンス	3	5
	第一次調査	第二次調査

第一次調査で「⑤学習指導法」に集中したので、第二次調査で多少変わった程度である。フォーバーグ女史から、「余り良い分け方（人数、室等の関係から見て）ではないが、暫らくこのままで行き、不都合が起ったら変えてもよい」との示唆があり、又、時間の都合もあり、この日は、このままで終了している。そして、この後、企画委員会も開催され、来週のスケジュールと明日の進行および運営について話し合っている。

11日の午前、Study Group の編成が討議され、九案が提出され、挙手の結果、第六案に決定。その決定の経過をまとめたのが、つぎの通りである⁹⁾。

研究班決定の経過

第一段階 (Orientation)

1月8日、Miss Foberg より I.F.E.L. についての Orientation あり、次の諸点について大要を知る。

Work Shop の特色 研究と運営の為めの組織

Study Group の作り方 Work Shop での仕事

1月9日、山口主任講師より Work Shop についての Orientation あり、各種委員会と Study Group の構成について了解す。

第二段階 (Discussion)

1月10日研究班組織の為めの討議を開始し、会員各自の課題として次の諸問題を提出す。

- | | | |
|-------------|--------------|---------------------|
| 1. 視聴覚教育 | 11. 学校評価 | 21. 事例研究 |
| 2. 望ましい教育環境 | 12. 学校管理 | 22. 道徳性の発達 |
| 3. 個人差と学習指導 | 13. 社会教育 | 23. 教科外活動 |
| 4. 教育評価 | 14. 教育心理 | 24. 学習活動の種類 |
| 5. 学習指導法 | 15. 学習指導の能率化 | 25. 図書館教育 |
| 6. 教育課程 | 16. 教育統計学 | 26. 現代教育の盲点 |
| 7. 道徳教育 | 17. 児童の生長と発達 | 27. ガイダンス |
| 8. 能力別学習 | 18. 遅滞児の問題 | 28. インテグレーションの原理と技術 |
| 9. 精神衛生 | 19. 指導主事の任務 | 29. 診断指導の為の科学的方法 |
| 10. 教育社会学 | 20. 学習心理 | |

第三段階

1月11日、前日提案された問題を引き続き検討整理し、まず九案にまとめ更に検討の結果次の四題、四班を決定し班別研究に入った。

	Group	Member of Study Group
I	教育課程 Curriculum	黒瀬, 高橋, 平井, 古城, 羽生, 末綱, 山中, 伊藤, 松崎, 松竹
II	学習指導 Teaching Method	舟越, 豊島, 莊, 福島, 福田, 杉山, 池上, 田中, 利光, 釘宮, 越智, 中村, 長島
III	教育評価 Education Evaluation	長野, 恵良, 野田, 笹田, 太田, 寺師, 野中, 斎藤, 岡部, 寺尾
IV	学校評価 School Evaluation	中溝, 広吉, 山本, 久野, 古川, 松永, 岡崎, 福園, 都留, 佐藤

表(二-④) 各種委員会の構成

	議長	教育課程	学習指導	教育評価	学校評価
デモンストラーション	中溝(佐)	羽生(鹿) 高橋(福)	長島(長) 福田(熊) 利光(大)	太田(熊) 野田(福) 恵良(福)	中溝(佐) 松永(長) 福園(鹿)
資料	岡崎(熊)	伊藤(愛) 平井(長)	池上(鹿) 田中(愛) 杉山(熊)	岡部(愛) 長野(福) 野中(宮)	津留(大) 岡崎(熊)
リクレーション	古川(福)	黒瀬(福) 古城(熊)	豊島(福) 船越(福) 越智(愛)	寺師(鹿) 斉藤(大)	佐藤(愛) 広吉(福) 古川(福)
編集	久野(福)	山中(高) 末網(大)	釘宮(大) 庄(福) 福島(佐)	寺尾(高) 笹田(長)	久野(福) 山本(福)
企画	広吉	末網(大)	利光(大)	恵良(福)	広吉(福)

注 福岡学芸大学『記録簿 小学校指導主事(-)』による。

そして、表(二-④)のように、各種委員も、任命され、「小学校指導主事」講座の Group Study は順調に、滑り出した。

IFEL において、ワークショップと同様に重要なものに、講師の講義である。枚数の都合で講義の全部を検討することは出来ない。したがって、アメリカ人講師と文部省の教員養成課長である玖村敏雄の講義を検討してみよう。アメリカ人講師の講義は、つぎの通りであった。

(1) Miss Foberg

- 1. 8 午前 ワークショップについて
- 1.25 午前 指導主事の任務
- 2. 1 午前 小学校の教育
- 2. 4 午前 よい学校の特徴
- 2.26 午前 カリキュラム
- 3. 3 午後 プランニングと時間割
- 3. 5 午後 一日の学校生活
- 3.11 午前 ユニットワークについて

(2) Dr. Howe

- 1.14 午前 教育指導者としての校長
- 3.10 午後 フィンガーペイント

(3) Dr. Carley

- 1.18 午後 現職教育について

三人のアメリカ人講師の中で、講義が一番多いのは、フォーバーグ女史である。これは、彼女は、「小学校指導主事」講座の直接の担当者であるか

らである。「ワークショップについて」は、前述したので省くが、1月25日の「指導主事の任務」についての講義を検討してみよう。この講義において「記録簿」によると、四つの項目に分けて講義している。(一)指導主事としての人格、(二)他の諸機関との関係、(三)指導主事の活動内容について、(四) Larger responsibilities についてである。2月1日の「小学校の教育—よい教育の特徴—」においては、(Ⅰ)児童 (1. 成長の諸型, 2. 成長の諸相, 3. 年令層による興味と要求, 4. 子どものグループ活動, 5. 児童の成長状況の研究測定, 6. 子どもは民主的なやり方を習得させる。)(Ⅱ)教育の改善, 2日後の2月4日の「よい小学校の特徴」においては2日前の講義の続きで、(1)児童, (2)学習の計画について、(3)教師、(4)学校建築と諸施設、(5)校長、(6)指導主事の項目に分けて講義している。20日余り経た2月26日、「カリキュラムについて」(Ⅰ. カリキュラムとは何か、Ⅱ. 教師はカリキュラムをどのように用いるか)、そして、「Units of Work について」(Ⅰ. Units Work はどこから出るか、Ⅱ. Units Work の性格、Ⅲ. Units Work の実例の例について」と、教育内容についての講義がなされる。3月3日、「Time Schedule Planning」、2日後の3月5日の午後、スライドを使用して、「一日の学校生活」、コネチカット州の新しい小学校の諸施設の説明が行なわれる。3月11日には、女史は、「Unit of Work について」の最後の講義をする。

Dr. Howe は、ニューヨークの州立教員養成大

学の初等教育行政部門の主任である。彼は、1月14日と3月10日に講義している。前者では、「教育指導者としての校長」という題目で、それは、大きく分けて、3項目からなる。(一)教育指導者としての校長という項目では、学校は、呼吸している生きた生命体で、「小学校校長は、この学校の生命に調子を与える」ことが、仕事であるとする。(二)民主的な学校の基盤になるものの項目では、個の価値と気品を信ずることと、知性を信じることを強調している。(三)実際問題の適用の項目では、1. 現職教員と教員会議、2. 職員会議の組織についての講義がなされ、その後、質疑応答がなされている。3月10日の午後は、附属小学校では、先ず、5年生に、Finger Paintの実習をし、つづいて、それについての講義がされる。

Dr. Carley は、1月18日の午前中に、現職教員について講義している。その講義は、6項目からなる。先ず、IFELの構成員において、女教員が少ないので、研修機会に、女子を多く加えるべきであることを強調している。つづいて、日本の初等教育界にLeadershipをとりもどせ、教育者の愛、今後の現職教育の在り方、日本の学校卒業者の悪い傾向について講義している。それを要約すると、国際的にみると、教員は、大学卒の者がある傾向があるので、大学卒の免状をとれるように、IFELにおいても、大学においてもすべきである。日本人の悪い傾向は、卒業した資格が一生ついてまわることである。現職中で、大学卒の学士号をとれるようにすべきで、「日本の地方からの研修者選定は年などにこだわらないで真の研究の出来る人を選定するのが、真の民主主義的な在り方である」という。

戦後の日本の教員養成の発足に当って、重要な役割を果たした玖村教員養成課長の講義を検討してみよう。1月18日午前中に、「教員養成について」の講義が行われている。先ず、教員が居なければ、学校(教育)は成立しないと、設備より教師が先行すると切言する。そして、教員就職前の教育には、大学教育学部、学芸学部、文理学部、学芸大学で行う計画養成と各種大学で実施される非計画養成に分けられるという。つづいて、教科に於ける教師の望ましい在り方として、小学校教員においては、全科担任と芸能科について論じ、中学校教員においては、二教科担任を目標とすると、断言している。その後、「教職課程と今後の教育の進歩」「我国の現在の職場の構造」「現職教育は如何にすべきか」等について講義されたと記録されている。

玖村課長は、3月7日の午前中に、「講和後の教育について」の講義をしている。これは、講和条約が発効される直前であったからであろう。彼は、「講和後教育の行方もかわるのではないか」と言う人もあるが根本的にかわるべきではないとする。平和国家、文化国家建設に努力し、世界に貢献するよう教育する。その為にも、6・3制を充実していくと。

IFELは、講義ばかりでなく、グループスタディをも重視したのは、前述の通りである。グループは、原則として、午後に、テーマに基づいて研究し、その成果を、368頁からなる研究収録にまとめられた。その総目次は、つぎの通りである。

総目次

第八回教育指導者講習実施概要……………	(6)
研究班決定の経過……………	(8)
第一編 カリキュラムの反省と今後のあり方……………	(12)
第一章 現代カリキュラムの検討……………	(13)
第二章 学校カリキュラム構成並びに運営上の諸問題……………	(29)
第三章 望ましい学校カリキュラムのあり方……………	(44)
第4章 結 言……………	(68)
第二編 学習指導……………	(72)
第一章 学習環境……………	(7)
第二章 学習心理……………	(7)
第三章 学習活動……………	(7)
第三編 教育評価……………	(172)
第一章 総論……………	(7)
第二章 教育評価と学習指導……………	(177)
第三章 性格行動の評価……………	(234)
第四章 残された問題……………	(247)
第四編 学校評価……………	(285)
第一章 学校評価の重要性……………	(7)
第二章 学校評価の領域……………	(289)
第三章 学校評価基準……………	(291)
第四章 「学校評価基準」の使用要領……………	(354)
第五章 学校評価の活用……………	(360)
第八回 IFEL (小学校指導主事班)	
参加者名簿……………	(366)
編集後期……………	(367)

(四) 「小学校管理」講座

「小学校管理」講座は、昭和27年1月7日から

2月15日までの前期と、昭和27年2月18日から3月28日までの後期との2回開催された。それは、講座主事藤吉利男教授、主事補佐山本三郎教授を中心として運営された。外人講師として、ニューヨーク州立大学教育学部教授ハウ (Kenneth E. Howe Edd.) 招聘された。その外、講師として、九州大学、広島大学、熊本大学、文部省等々から招聘された。それでは、前期と後期に分けて、講座を検討してみよう。

(イ) 前期講座 (昭和27年1月7日～2月15日)

前期講座への参加者は30名である。その県別の内訳は、表(二一⑤)の通りである。九州と四国の県から派遣されている。年齢は、38才から54才にわたっている。職種をみると、30名のうち、27名は小学校長であり、残りの3人は、主事2人、視学1人である。

表(二一⑤)「小学校管理」講座(前期)の県別・年齢別参加人数

県名	人数	年齢	人数
福岡県	7人	38才	2人
大分県	1人	40	1
熊本県	4人	41	5
長崎県	4人	43	4
宮崎県	2人	44	2
鹿児島県	5人	45	5
香川県	2人	46	1
高知県	3人	47	3
合計	30人	48	1
		49	2
		50	2
		53	1
		54	1
		合計	30人

注 【昭和26年度教育指導者講習修了者名簿】 pp. 89～91 による。

30名の参加者は、「小学校長の責務」班、「教育計画」班、「学校と社会研究」班、「現職教育研究」班の4班に分れ、研究活動を行った。グループの研究活動の領域決定は、「学校管理の一応の体系にこだわるのではなく、特に現下喫緊の具体的課題という観点から行われた⁶⁾」と言うことであった。基本的には、午前中講義がなされ、午後、グループ毎に分れ、研究活動が行なわれた。各講師の講義題目は、つぎの通りである⁷⁾。

大津親人 (福岡学芸大学助教授) 教育社会学
ハウ博士 (ニューヨーク州立大学教授) 教育指導者としての校長

藤吉利男 (福岡学芸大学教授) 教育原理
ハウ博士 (ニューヨーク州立大学教授) ワークショップ
原 俊之 (九州大学教授) 学校管理
玖村敏雄 (文部省教職員養成課長) 教師養成
カーレー女史 (米人講師) 教師養成
ハウ博士 (ニューヨーク州立大学教授) 子供の発達の原理
皇 至道 (広島大学教授) 教育行政
山本三郎 (福岡学芸大学教授) 教育評価
平塚益徳 (九州大学教授) 道徳教育
藤吉利男 (福岡学芸大学教授) カリキュラム
松下三省 (福岡学芸大学助教授) 人間存在と教育
中 修三 (九州大学教授) 精神衛生
米原七之助 (熊本大学教授) 教育財政
駒田錦一 (文部省事務官) 社会教育
内藤先生 (九州大学教授) 社会調査
ハウ博士 (ニューヨーク州立大学教授) よい小学校

以上のような講義題目に基づいて講義が行われたのであるが、その中で外国人招聘講師ハウ博士の講義が4回実施されている。その講義題目は「教育指導者としての校長」「ワークショップ」「子供の発達の原理」「よい小学校」であった。それらは、民主主義の諸原理を教えるものであった。議長とグループ研究活動の結果、205頁からなる「教育指導者講習研究収録」が刊行された。その目次は次の通りである⁸⁾。

目 次

第一章 教育行財政……………(13)

第一節 教職員服務規程……………(々)

Ⅰ 本研究の重要性と問題の提示……………(々)

Ⅱ 服務……………(々)

Ⅲ 職員の任務と権限……………(14)

Ⅳ 職員の勤務……………(16)

Ⅴ 校務……………(22)

Ⅵ 教育管理……………(24)

Ⅶ 保健、福祉……………(28)

Ⅷ 職員の研修……………(32)

第二節 学校予算と学校長……………(33)

Ⅰ 教育計画と学校予算……………(々)

Ⅱ 立案の基礎……………(々)

Ⅲ 学校予算の編成……………(36)

Ⅳ 予算の執行と校長……………(40)

Ⅴ 学校予算の監査……………(42)

Ⅵ PTAの予算……………(43)

Ⅶ 教育財政の将来……………(44)

第二章 小学校長の責務……………(45)	II 活動分野……………(96)
第一節 本研究の重要性と問題の提示……………(45)	III 運営の計画……………(97)
I 校長の重要性……………(45)	IV 活動実践……………(99)
II 民主的指導者としての校長……………(46)	第四章 学校と社会……………(103)
III 管理者としての校長……………(46)	第一節 学校と社会とは、どんなに結び
第二節 小学校長の職務内容……………(46)	つかねばならないか……………(46)
I 問題提示の理由……………(46)	I 地域社会をどんなに解するか……………(46)
II 問題の解決……………(46)	II 地域社会はどんな教育的意義を
第三節 教育活動を活発にする	持っているか……………(46)
運営機構……………(53)	III 地域社会における小学校の機能と
I 問題提示の理由……………(46)	性格はいかにあるべきか……………(104)
II 問題の解決……………(55)	第二節 地域社会学校としての運営は
第四節 職員会議……………(60)	いかにあるべきか……………(108)
I 問題の提示……………(60)	I 地域社会の実態をいかにして
II 問題の解決……………(46)	つかむか……………(46)
第五節 助言指導……………(65)	II 地域社会学校の教育計画はいかに
I 問題提示の理由……………(46)	あるべきか……………(113)
II 問題の解決……………(46)	III 学校と社会との相互協力をいかに
第三章 教育計画……………(74)	はかるか……………(115)
第一節 教育目標……………(46)	第三節 PTA の運営はいかに
第二節 教育計画の領域と研究の	あるべきか……………(126)
範囲……………(46)	I PTA の本質的な性格はどうで
I 教育計画の領域……………(46)	あるか……………(46)
II 領域の一覧表……………(46)	II PTA の目的及び方針はいかに
III 研究の範囲……………(76)	あるべきか……………(127)
第三節 教科外活動……………(46)	III PTA の組織・運営・活動はいかに
I 意義……………(46)	あるべきか……………(128)
II 重要性……………(46)	IV PTA において学校長はどんな
III 教科外活動の目的……………(77)	役割をはたすべきか……………(131)
IV 教科外活動の組織及運営上の	V PTA の評価基準はどうあればよいか
留意点……………(78)	……………(133)
第四節 児童会の指導と管理……………(79)	VI PTA の現状ならびに将来について
I 児童会の意義……………(46)	どう考えるか……………(46)
II 指導目標……………(46)	第四節 社会の現実教育の将来に何を
III 活動内容と組織……………(80)	求めているか……………(135)
IV 運営指導上の問題点……………(81)	第五節 現職教育……………(137)
第五節 奉仕活動……………(84)	第一節 本研究の重要性と問題の提示……………(46)
I 指導目標……………(46)	I 現職教育の意義……………(46)
II 組織運営上の留意点……………(46)	II 現職教育の必然性とその目標……………(46)
III 各クラブ活動の目標と内容……………(85)	III 問題の提示……………(138)
第六節 研究クラブ活動……………(88)	第二節 現職教育の計画をどのように
I 必要性……………(46)	したらよいか……………(139)
II ねらい……………(89)	I 問題提示の理由……………(46)
III 組織……………(46)	II 問題の解決……………(46)
IV 運営……………(90)	第三節 現段階における校内現職教育の
V 研究クラブの類別と内容……………(91)	重点をどこにおいたらよいか……………(146)
第七節 校外児童会の運営……………(95)	I 未経験の教職員の研究法を
I 運営目的……………(95)	考える……………(46)

- II 推進力となる中堅教員を養成する…………… (147)
- III 女教師に自主性をもたせる…………… (147)
- 第四節 現在必要とする現職教育の方法はどうすればよいか…………… (148)
 - I 問題提示の理由…………… (ク)
 - II 方法上の重要条件…………… (ク)
 - III 主なる現職教育の方法…………… (149)
- 第五節 学校の日常生活における現職教育の方法はどうしたらよいか…………… (155)
 - I 校内教職員に対する校長の指導…………… (ク)
 - 1. 校長の指導の態度…………… (156)
 - 2. 校長の教室訪問…………… (ク)
- 第六節 地区における現職教育はどうすればよいか…………… (159)
 - I この問題を取りあげた理由…………… (ク)
 - II 地区とは…………… (159) (付録)
 - I 講義内容…………… (173) (省略)
 - II 会場風景…………… (197)
 - III 受講者の声…………… (202)

(ロ)後期講座 (昭和27年2月18日～3月28日)
 後期講座への参加者は、前期より4人少なく、26人である。そのうち、福岡県が、やはり、一番多い⁹⁾。前期に比べると、四国からの参加県は高知県だけである。参加者年齢は、前期より、やや若い。職種をみると、26人全員が小学校長である。

表 (二一⑥) 「小学校管理」講座 (後期) の県別・年齢別参加人数

県名	人数	年齢	人数
福岡県	6人	38才	1人
佐賀県	3	40	2
熊本県	5	42	1
長崎県	2	43	5
宮崎県	3	44	7
鹿児島県	4	45	5
高知県	3	48	2
合計	26	49	1
		50	2
		合計	26

注 『昭和26年度教育指導者講習修了者名簿』 (pp. 91～92) と 『第八回後期教育指導者講習研究集録 小学校管理』 福岡学芸大学 (p. 187) による。

参加者は、講座主事藤吉教授指導の下に、つぎのような委員会構成で¹⁰⁾、後期の講座を運営した

- のであった。
- I 計画委員会 (8名)
 - 権丈、木村、山口初、中川、高橋、杉田、春、山口^ロ
 - II 委員の構成
 - 1. 資料図書 (8名)
 - 権丈、山口初、松下、大森、田中、大川、山口^ロ、西山
 - 2. 記録編集 (6名)
 - 杉田、石本、中山、清水、北林、高橋
 - 3. 渉外 (見学宿舎) (7名)
 - 春、香田、木村、中川、三浦、尾籠、中野
 - 4. レクリエーション (5名)
 - 山口^ロ、押領司、神山、町田、紀井
 - III. 研究グループ
 - 1. 学校の行財政 (1. 行政, 2. 財政) (6名)
 - 高橋、杉田、田中、町田、神山、中山
 - 2. 学校長の責務 (現職教育) (6名)
 - 山口初、山口^ロ、春、北村、中野、松下
 - 3. 学校の教育計画 (6名)
 - 権丈、中川、山口^ロ、石本、押領司、尾籠
 - 4. 学校と社会 (3名)
 - 木村、清水、大森
 - 5. 教育法規 (5名)
 - 香田、紀井、大川、三浦、西山
 - 印は委員長
- 講師とその講義内容は、つぎの通りである¹¹⁾。

講義題目	現職名	講師名
教育行政及び法規 教育委員会法	文 部 省	天 城 勲
よい Group Study について	ニューヨ ーク州立大学 教育学部	Dr. KENNETH E. HOWE
図画教育 よき小学 校の特徴		
民主的な指導者 児童の発達とカリキ ュラム		
小学校教育の新しい 傾向	福岡学大附 中	通訳 田 町 豊 子
小学校長の任務		
教育原理, 教育課程	福岡学芸 大 学	藤 吉 利 男
民主主義教育の根本 問題	九州大学	平 塚 益 徳
社会教育 (成人教育)	熊本大学	丸 山 学
教育社会学	福岡学芸 大 学	松 下 丈 夫

講義題目	現職名	講師名
学校管理	九州大学	原 俊之
I.F.E.L. 受講の先生への希望	米国講師	Carley
教育法規(教員養成の諸問題)	文 部 省	玖村敏雄
教育財政	山 口 県 教 育 長	野村幸祐
教育哲学	福 岡 学 芸 大 学	松 下 三 省
精神衛生, 特殊教育	九州大学	中 修 三
教育行政(学校建築)	文 部 省	佐藤 薫
社会調査	九州大学	内藤
教育社会学	福 岡 学 芸 大 学	大津親人
教育評価	全 上	昇地三郎
科学教育	福 岡 学 芸 大 学 長	塚本玄門
見学指導(太宰府, 飛行場, 八幡製鉄所, アメリカンスクール, 学校訪問)		Howe 藤吉利男 昇地三郎

そして、講義の中心になったのは、言うまでもなく、外人講師のハウである。表(二-⑦)の日程表をみると、講義ばかりでなく、グループ研究が、主に、午後行われている。その外、レクリエーション、見学等が行なわれている。

「Dr. Howe 氏の親切な指導と、藤吉、山本両氏の適切な助言指導によって」、教育指導者講習会は進められて行ったのであるが、その成果として、下記のような『第八回後期教育指導者講習研究収録』が刊行された。その刊行に至るまでの過程を参加者の代表者は、つぎのように述べている。

「元来、学校管理の分野は実に大きな仕事が含まれていて、短期間に研究し尽されるものではない。そこで26名の会員は、此の期間を通じて研究し解決したいと思う切実な問題を、夫々提出し、共通の問題を持つものによってグループを編成して、その研究に当ることにした。その結果、次の4グループが編成された。

1. 学校行財政(合法規) (11人)
2. 学校長の責務 (6)
3. 小学校の教育計画 (6)
4. 学校と社会 (3)

表(二-⑦)「小学校管理」講座(後期)の日程表

	18日(月)	19日(火)	20日(水)	21日(木)	22日(金)
第一週目	午前 開講式 10.00	Lecture 教育行政及び法規 (文部省天城講師)	Orientation Dr. Howe Speach	Orientation 研究グループ及び び委員会の組織	Lecture 教育原理 (藤吉教授)
	午後 会 食 (自己紹介)	↓ 全上	Orientation (藤吉教授)	Group Study	Group Study 企画委員会
第二週目	午前 教育原理 (藤吉教授)	Group Study	よき小学校の特徴 (Dr. Howe)	特別講義 (平塚教授) 九大	社会教育 (丸山教授) 熊短大
	午後 Group Study 企画委員会	実地授業参観 (図画 附小) Dr. Howe	Leclation (太宰府見学)	社会教育 (丸山教授) 熊短大	Group Study
第三週目	3日(月)	4日(火)	5日(水)	6日(木)	7日(金)
	午前 社会教育学 (松下教授)	民主的な指導者 について (Dr. Howe Speach)	学校管理 (原教授) 九 大	同 左	教育法規 (Dr. Carley) 玖村課長文部省
	午後 Group Study 企画委員会	板付飛行場見学	スライド Group Study	映 画 Leclation (バレーボール)	記念撮影 Group Study

(土)東郷小学校参観

第四週目	午前	10日(月) 教育財政 野村講師 (山口県教育長)	11日(火) 全体会議	12日(水) 精神衛生 (九大 中教授)	13日(木) 全 左	14日(金) 八幡製鉄所見学	(出)炭坑見学
	午後	全 上 企画委員会	教育行政 (学校建築) (文部省中尾講師)	Group Study	スライド 教育哲学 (松下=講師)	同 上	
第五週目	午前	17日(月) 児童の発達とカリキュラム (Dr. Howe Speech)	18日(火) 社会調査 (九大内藤教授)	19日(水) アメリカン スクール 見 学	20日(木) Group Study	21日(金) 春 分 の 日	(出)姪ノ浜小学校参観
	午後	Group Study 企画委員会	教育社会学 (大津講師)	Group Study	C.I.E. 映画 Group Study		
第六週目	午前	24日(月) アメリカに於ける小学校教育の傾向 (Dr. Howe Speech)	25日(火) 教育評価 昇地教授 (福学芸大)	26日(水) 教育課程 (藤吉教授)	27日(木) 小学校長の任務 (もし私が好調であったら) (Dr. Howe Speech)	28日(金) 閉 講 式 9.10~	
	午後	民主主義教育の根本問題 (九大平塚教授)	全 上	科学教育について (学長塚本玄門)	懇 談 茶 話 会		

注 (1) 『第八回後期 教育指導者講習研究集録小学校管理』福岡学芸大学 p. 189 による。
 (2) Leclation は、Recreation の誤字であろう。

各研究グループは、夫々のテーマに従って、グループスタディの時間に、各方面から検討し、意見を述べ、疑問の点については、参考図書を利用したり、講師の指導助言を得たりして、段々と問題の核心に触れて行くという方法によって研究を進めていった。此の間文部省を始め、各大学教授の各種の講義があつて、われわれの研究に、はっきりとした理論の裏付けや、方向付けをして頂いた事は、誠に感謝にたえない。

こうした研究方式に馴れないわれわれにとって、今回の講習会は幾多の示唆を与えられ真に有意義であつたと思う。

特に学校長の責務の大部分を、学校管理という様に考えていたわれわれにとって、むしろ指導助言に大半を費やさねばならぬという話は、頂門の一針であつた。教育的識見よりも、むしろ政治的手腕を高く評価した過去の校長評価方式を根本から改めなければならぬと思う。かくて研究の進むにつれ、色々と困難な問題に逢着したが、グループの成員は一致協力して、小さな問題から解決していった。」¹²⁾

以上の経緯でまとめられた『研究収録』の目次

は、つぎの通りである¹³⁾。

目 次

第一編 学校管理の諸問題と対策	15
一、教職員の立場から	16
1. 学校長について	16
2. 教職員について	21
二、組織と運営の立場から	26
1. 現状への反省	26
2. 望ましい組織と運営への溢路は何か	26
3. 望ましい学校組織の原則	27
4. 職員の組織と運営について	27
5. 児童の組織と運営について	32
6. その他の組織	36
7. 新しい学校組織の全体構造	36
8. 組織運営に対する結び	37
三、教育施設の立場から	38
1. 施設の最低基準	38
2. 施設の評価尺度	39
3. 現有施設の活用	41
4. 望ましい小学校の教育施設	43
四、教育財政確立の立場から	45

1. 我が国の教育財政の実態は どのようにあるか……………45	(五) 会をどのように運営したらよいか…………77
2. どうしたら、教育財政の確立が できるだろうか……………51	(六) 学校長の指導助言はどのように なすべきか……………79
3. 将来に於ける教育財政確立の問題…………54	六、基礎的教職教養の欠けた教職員に対し 学校長は如何に助言指導をするか…………80
第二編 校長の責務……………57	(一) 問題の主旨……………80
一、校長の職務の分析……………57	(二) 学校最大の隘路は何か……………80
(一) 校長の地位……………57	(三) 指導者としての学校長は どうしなければならないか……………81
(二) 校長の職責……………57	(四) 学校長は教職員をどの方向に どう導くか……………82
二、民主的な学校管理……………59	(五) 職員研修の具体的内容に どんなものがあるか……………82
(一) 教職教養の重要性……………59	(六) 未経験者の助言指導を如何にするか…………83
(二) 教職教養の重要視される理由……………59	(七) 職員研修の機会や方法にどんな ものがあるか……………84
(三) 教職教養の内容……………59	(八) 結論……………84
(四) 助言指導の必要性……………60	七、学校の新しい施設とその活用は どんなにあったらよいか……………85
(五) 校長と教養……………60	(一) 学校長は施設管理について どんな心構えが大切か……………85
(六) 民主的な学校管理……………61	(二) 新しい施設はどんなにあったら よいか……………85
(七) 民主的協力によって経営される 学校の特質……………62	(三) 施設の具体的なもの……………86
(八) 民主的協力を実現するための校長の 態度……………62	(四) 学校施設を社会にどんなに利用 させるか……………90
(九) 校長の日課表……………63	第三編 望ましい学校生活の設計……………91
(十) 学校評価委員会の組織と評価の実施…………63	一、小学校教育の位置と性格……………91
三、校内に於ける研究会を如何にするか…………64	1. 義務教育制と小学校……………91
(一) 校内研究会にはどんなものがあるか…………64	2. 小学校の性格……………92
(二) 校内研究の重点はどうきめたら よいか……………64	3. 小学校教育の効用……………94
(三) 校内研究会を運営して行く上に 大切な事はどんなものか……………65	二、小学校教育の目標……………95
(四) 研究授業について反省すべき事項は 何か……………65	1. 新教育の国家的目的……………95
(五) 校内研究会に於ける校長の立場を 如何にするか……………67	2. 小学校教育の目標……………95
四、校長の教室訪問はどうあるべきか…………68	三、小学校教育の社会的機能……………97
(一) 校長の教室訪問はどんなことを ねらったらよいか……………68	1. 教育と社会……………97
(二) 教室訪問の計画……………68	2. 学校と社会……………98
(三) 教室訪問に於ける校長の態度……………69	3. 学校教育の社会的機能……………100
(四) 教室訪問の方法……………69	四、教育計画と実態調査……………105
(五) 教室訪問の記録——記録表……………70	1. 学校教育計画と地域社会の 実態調査……………105
(六) 訪問後の指導をどうしたらよいか…………72	2. 学校教育と学校調査……………112
五、部別共同立案授業研究会……………73	3. 児童の実態と理解……………112
(一) 職員組織の実態はどのようになって いるか……………73	五、小学校に於ける教育計画の範囲……………114
(二) 現職教育はなぜ必要であるか……………75	1. 教育課程の問題……………114
(三) 現職教育の目標はどのように 定めたらよいか……………75	2. 教育課程……………115
(四) 現職教育の組織はどのように したらよいか……………75	六、学校生活の設計……………117
	1. 学校生活の設計……………117

2. 年間行事計画	118	5. 懲戒	167
3. 年間の学校時数について	120	五、教職員 (教育公務員) の服務について	167
4. 日課表作成について	124	1. 教職員服務の根本基準	168
5. 週時間配当及び日課表例	125	2. 服務の宣誓	168
6. 好ましい一日	127	3. 法令及び上司の職務上の命令に従う義務	168
附 校長の一日のプログラム	129	4. 信用失墜行為の禁止	168
第四編 学校と社会	131	5. 秘密を守る義務	169
一、地域社会が学校教育推進の溢路と		6. 職務に専念する義務	169
なっているものにどんな問題が		7. 財政的行為の制限	169
あるか	131	8. 争議行為等の禁止	171
(一) 学校教育に対する理解の不足	131	9. 営利企業等の従事制限	171
(二) 地域社会の実態の把握	131	10. 教育委員会を置かない市町村立学校	
(三) 社会人の道德生活	132	教員の場合	172
二、地域社会は学校教育に何を求めているか	137	11. 教育公務員特例法の概要について	172
(一) 地域社会における学校の性格は		六、教育活動に関するもの	173
どんなものか	137	1. 学年, 学期, 授業日	173
(二) 地域社会の要望は尊重せられなければならない	137	2. 教育課程と学習指導要領	174
(三) 地域社会の要望にどんなものがあるか	138	3. 小学校の教科指導	175
(四) 地域社会における学校の運営は		七、保健衛生に関するもの	175
どのようにしたらよいか	141	1. 学校に於ける健康教育の地位	175
三、地域社会はどうすれば学校教育に		2. 教育委員会の任務	175
理解と関心を深めるようになるか	142	3. 保健所の協力	176
(一) 学校教育を地域社会に理解させるのに		4. 身体検査	176
どんな活動があるか	142	5. 予防接種	178
(二) 学校教育を地域社会が関心をもって		6. 伝染病の予防	179
協力するためにはどの様な組織を指導活		7. 学校に於ける結核予防	180
用したらよいか	147	8. 学校の清潔方法	182
第五編 教職員に最も必要な法規提要	155	附 録	185
一、法規班の研究態度	155	講習関係者名簿	185
1. 研究のテーマを教育法規にとった理由	155	講師一覧	186
2. 研究方法の態度	155	参加者一覧	187
二、教育の目的、方針、並に目標	155	委員会組織一覧	188
1. 学校教育の目的	155	I. F. E. L. 日程表	189
2. 学校教育の方針	156	大学構内図	190
3. 学校教育の目標	156		以上
4. 教育の機会均等	157		
三、教職員の職務	157		
1. 校長の職務	157		
2. 校長以外の職員の職務	162		
四、分限及び懲戒	163		
1. 分限及び懲戒の基準	163		
2. 分限	163		
3. 分限の手続	165		
4. 分限の効果	166		

以上のように、福岡学芸大学で開催された「小学校管理」講座の内容を検討してきたのであるが、前期も、後期も、講習参加者の大部分は、小学校校長である。そして、外人講師ハウの指導の下に、藤吉利男と昇地三郎が中心となって、運営が行なわれたのであるが、【研究集録】の目次を詳細にみると、前期のそれと後期のそれとは、異なる。それは、研究課題設定において何よりも、参加者の興味・関心を大切にしながらであろう。また、前期と後期の日本人講師の講義内容の違いにもよるのであろう。

そして、受講者には、つぎのような単位修得証明書が授与された¹⁴⁾。

福岡学芸大学

単位修得証明書	
本籍	宮崎縣児湯郡川南村大字川南一三五七二
氏名	平田 宗後
生年月日	明治四十三年一月二十日
授與単位	
昭和26年度教育指導者補習 (自 月 日至 月 日) 科研究内容	
個人業績 特に現職教育についての研究を行う 真摯熱心にして優秀	
備考	
年月日 (科主任講師) (専任講師) (米人講師) (大 学)	

おわりに

第8期に、福岡学芸大学で開催された「小学校指導主事」、「小学校管理」(前期、後期)講座を検討してきた。それを通して、つぎのようなことが言える。

(一)つは、運営は、福岡学芸大学の教官を中心に行なわれ、講義は、外人講師を中心に、福岡学芸大学の教官および九大等教官の協力によって実施

された。

(二)つは、参加者は、九州および四国の各県からであった。その職種は、「小学校指導主事」講座においては、指導主事が一番多く、公立小学校の校長および教頭、附属小学校教諭等々であるのに対し、「小学校管理」講座においては、大部分は小学校校長である。参加者の年齢は、前者は、33才から45才までであるのに対し、後者は前期、38才から45才、後期、38才から50才と、前者より参加者の年齢が高い。

(三)つは、講習期間は、「小学校指導主事」講座は12週間であったのに対し、「小学校管理」講座は、前期、後期とも、6週間であった。

(四)つは、講義内容は、「小学校指導主事」講座と「小学校管理」講座によって異なるが、スケジュール表を見ると、通常、月曜日から金曜日まで行なわれ、午前中、講義、午後はグループ研究をすることを原則としている。その他、レクレーション、見学、パーティ等も、同種の中に含まれている。その中で、参加者が大きな影響を受けたのは、自分たちで、問題提起し、計画を立て、研究し討論し、まとめて行く、グループ研究であった。後期の「小学校管理」講座の参加者の代表者が「学校管理といえば、学校長の独占的教育分野として考えられる点が多分にあつて、一般教員並びに教育関係者は、その指揮命令によって之に参加するという行き方であった、然し民主的学校管理の在り方は、教育関係者の全部が其の分に応じて、之に参加し、学校教育の目的達成のために協力することだとされている」という民主主義の原理を身を以て学んだことである。

(五)つは、外国人講師の生活、参加者への態度等から、民主主義の在り方を学んだことである。受講者の一人は、つぎのように語っている。

「今迄、民主的な、という言葉も何度か使った。民主主義ということは説明では解るものではないと人にも説いた。しかしこの六週間の体験によって得た民主的生活を思うと今迄のことがはずかしい様な気がしてならない。」¹⁵⁾

附記 この研究は、文部省科学研究費補助金(課題番号05610213代表者平田宗史)による。

(注)

- 1) 文部省大学学術局教職員養成課『教育指導者講習小史』昭和28年3月25日13頁。
- 2) 福岡教育大学蔵『福岡学芸大学教育指導者講習関係者名簿』
- 3) 同上書によると、小学指導主事講座の補佐の名前として塚本正三郎助教授の名前はないが『第八回教育指導者講習研究集録小学校指導主事』(福岡学芸大学)には、彼の名前がある。そして、米人講師補佐

(通訳) の一人である浅井英子は、一身上の都合で、福岡学芸大学田川分校講師山内孜と、交代する。

- 4) 福岡学芸大学『第八回教育指導者講習研究集録小学校指導主事』序
- 5) 同上書 p. 8.
- 6) 福岡学芸大学『第八回前期教育指導者講習研究集録 小学校管理』(序) 藤吉利男
- 7) 同上書 p. 9.
- 8) 同上書 pp. 6~10.
- 9) 教育指導者講習連絡室『昭和26年度教育指導者講習修了者名簿』(pp. 91~92) によると、29名の名前があるが、3名は、福岡学芸大学附属小学校からの参加者で、助手を務めたようである。
- 10) 前掲書『第八回後期 教育指導者講習研究集録 小学校管理』p. 188.
- 11) 同上書 p. 186.
- 12) 同上書 pp. 7~8.
- 13) 同上書 pp. 9~14.
- 14) 福岡教育大学蔵『昭和27年1月7日~2月15日 単位修得証明書 IFEL 小学校管理講座(前期)』
- 15) 前掲書『第八回前期 教育指導者講習研究集録 小学校管理』202頁。